

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 06

学校名・団体名	日立市立久慈小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域との連携による豊かな体験交流学习の推進

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動の意義

本校では、総合的な学習の時間や生活科の時間を通して、地域学習に積極的に取り組んでいる。学校から歩いて15分程度の久慈浜の海岸をきれいにする海岸清掃や地域の方を講師にお願いしての体験交流学习は本校ならではの行事である。これらの活動は、なかよし学級と呼んでいる縦割り班をベースに行うことで、上の学年は、同学年での活動にはない活躍の場があるとともに下の学年は上の学年の頑張りや優しさにふれる機会となり、自己有用感を高めることに大きく貢献している。さらに、地域と連携した豊かな体験活動を通して、地域への愛着が高まるとともに地域の方々とコミュニケーションを楽しむ子どもを育てたいと考えている。

特に、文化体験交流会は、2年前から、保護者や地域の方に協力をお願いして、子どもたちの文化体験活動を展開している。今年度は、チャレンジ体験として、フラダンス、モダンバレエ、デザイン、空手、電気工作、久慈浜ソーラン、腹話術、生け花、竹とんぼづくり、押し花、おもちゃづくり、バルーンアート、スポーツ吹き矢、羊毛マスコットの14の体験コーナーを用意した。活動を通して、本校の教育目標「感謝の心を大切にし、目標に向かって自ら進んで挑戦するたくましい久慈っ子を育成する」の達成を目指していきたいと考え、実施計画を立案した。

2 活動の様子

(1) 海岸清掃 H30.7.12（木）

25年以上続けている活動である。平成26年7月に、国土交通大臣から表彰を受けた。異学年のグループをつくり、上の学年と下の学年と一緒に活動することで子どもたちの絆を深めることにつながっている。さらに、下の学年は、上の学年の優しさを知ること、こんなお兄さんお姉さんになりたいという思いが高まっている。海岸清掃の後には、異学年のなかよしグループでの砂遊びを楽しんだ。この活動を通して、自分たちの海水浴場をこれからもずっときれいにしていきたいという思いが育っている。

(2) 久慈小文化体験交流会 H30.10.13（土）

今年度3年目を迎える計画である。久慈地区で子どもたちの体験活動に協力してくれる方の情報収集から始めた。2年間の反省と子どもたちの希望をもとに14の活動のコーナーを設定した。子どもたちの希望を優先して、どの体験コーナーに参加するかを決めた。今年度は十分に体験活動を楽しめるように120分の活動時間を確保した。





フラダンス



羊毛フェルトマスコット作り



生け花



デザイン



空手



おもちゃ作り

(3) 親子学習会 H30. 10. 11 (木)

電熱線を用いて発泡スチロールカッターを自作した。自分で作った道具で発泡スチロールの板を切り抜いて形に表した。電気ので発泡スチロールを切ることができるのは、不思議な感覚であり、親子で協働して製作をしていた。親子で取り組んだことで、たくさんの工夫がある作品が仕上がった。

(4) サバイバル飯炊き体験 H30. 10. 17 (水)

アルミ缶でコンロとおかまを作り、牛乳パックを燃料としてご飯を炊く体験をした。ごはんを火で炊く体験はほとんどないため好奇心いっぱいであったが、実際に炊いてみると火力を保つのが難しかったり煙が目にしみたりするなどご飯を炊く苦勞を強く感じながらの作業であった。ごはんは必ずしもうまく炊けなかったが、自分で炊いたご飯をみんなで食べることで別な意味でのおいしさを味わうことができた。保護者の協力もあり、学校でこのような体験ができたことを喜んでた。



3 成果

- ・子どもたちに伝統行事や地域のよさを伝えたい、三世代にわたって絆を深めていきたいという地域の方の思いにより、今まで以上に学校と地域との絆を深めることができた。
- ・「自分たちが大人になったら地域の行事に協力したい」など子どもが地域を愛する気持ちが高まった。
- ・異学年交流を通して、子供たちの縦のつながりが深まるとともに、自己有用感や学校への所属感が高まった。
- ・環境を守るためには自分たちに、何ができるのか、まずできることからやっという意識が高まった。